

3 県民の生涯にわたる学びへの貢献

・ 定量評価 (5=100%以上 4=90～100% 3=80～90% 2=70～80% 1=70%未満)

・ 総合評価 (A＝成果を上げている (4.5以上)、B＝順調に進んでいる (3.5以上4.5未満)、C＝概ね順調に進んでいる (2.5以上3.5未満)、D＝順調に進んでいるとはいえない (1.5以上2.5未満)、E＝事業の見直しが必要 (1.5未満))

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	計	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県民の読書環境の整備	利用サービスの改善	・ 利用しやすいレイアウト変更等 ・ 調査相談（レファレンス）機能の向上 ・ SNSによる情報発信	入館者数【40万人】 ※コロナ禍の影響を考慮	SNSでの情報発信の更新頻度を上げるとともに、電子書籍サービスの利用をきっかけに直接来館利用にもつながるように体験会では図書館サービスについて全般的に説明を行った。 4月から感染症拡大防止のため制限していた館内設備の利用再開を広報して目標の達成を目指したが、厳しい状況である。	315,342人	達成率79% 評価（2） 70～80%	5類に移行したとはいえ感染症が発生し続けている状況ではあったが、入館者数は昨年度に比べて18,669人増加した。 電子書籍サービスやオンラインの利用登録など非来館型のサービスを展開していることを考慮すると、目標値の見直しが必要ではないかと考える。	D	入館者数は目標と79%だが貸出冊数は92%と目標値に近い値になっている。これは、1人あたりの貸出冊数が増えているのか、それとも館内閲覧のみの利用者が減ったためなのかといった分析をしていただき、対応策を検討していただきたい。 電子書籍サービスの導入も始まり利用させてもらっているが、引き続きPRを行い、若い世代や遠隔地の利用者の増加やサービスの充実につなげてもらいたい。
			貸出冊数【45万冊】 ※コロナ禍の影響を考慮	資料費の削減に対応しながら令和5年度も引き続き効果的・効率的な選書に取り組むとともに、閲覧室展示では時事的なテーマの展示や県各所属との連携展示を積極的に行い、資料の利用促進を図った。 併せて書架内展示や資料の見せ方の工夫など、魅力ある棚づくりに努めた。	416,761冊	達成率93% 評価（4） 90～100%	資料収集方針に沿って、より効果的・効率的な選書に取り組むとともに展示等による資料のPRを行っているが、資料費削減の影響はカバーしきれなかった。 今後も可能な限り展示のテーマや見せ方を工夫して所蔵資料の有効活用を図っていききたい。また電子書籍の活用促進にも注力していきたい。	B	資料費削減の影響で雑誌コーナーでは「購入を中止しました」という張り紙が多く見られた、やむを得ないと思われるが、利用者に配慮した対応をお願いしたい。 入館者数、貸出冊数など現在の社会情勢（電子化等）を考えたの評価をし、それに応じた工夫を重ねていく必要があると思う。 図書館に足を運ばない県民の目も、向くようにしてほしい。
			レファレンス協同データベース登録件数【40件】	利用者から寄せられた調査相談内容から、主に郷土に関するテーマなど、県民の調査研究活動を支援すると思われる事例や関心が高いと思われる事例を選定して登録している。 今年度は調べ方マニュアルも登録した。	44件	達成率110% 評価（5） 100%以上	作業に遅れがみられるが、目標は達成する見込みである。 今年度は調べ方マニュアルも2件登録する予定である。	A	
			SNSへの記事掲載回数【120回】	電子書籍サービスのPRやお勧め本の案内、図書館周辺の景色や自然の移り変わり等を随時発信し、来館利用につなげるように取り組んだ。	123回	達成率103% 評価（5） 100%以上	当初目標を達成した。 次年度以降も、若年層にも図書館を身近に感じてもらい、来館利用につながるような、SNSの特性を活かした情報発信に取り組んでいきたい。	A	今の時代、SNSでの各種情報発信が効果的であり、読書離れの若者向けの発信を積極的に行ってもらいたい。 せつかくのXのポスト、HPのトップページに最新の記事がいくつか反映されるようにしてほしい。
	読書に困難のある県民へのサービスの充実	・ 新コーナー設置と資料の充実 ・ 利用者のニーズに合ったサービスの提供 ・ サビエ等サービスのPR	サビエ資料の貸出冊数【260点】	視覚障害者情報センターと連携し実施している「視覚障害者サービス研修」（市町村図書館職員向けの研修）にて、サビエ活用の呼びかけを行った。 電子書籍サービス開始に併せて行っている体験会において、サビエのPRも行った。	213点	達成率82% 評価（3） 80～90%	電子書籍サービス体験会で利用者の状況を伺いながら説明を行った結果、サビエサービスの利用につながった事例が発生した。 今後もPRを強化していく。 初の対面朗読サービスの利用が発生し、継続利用いただいている。	C	サビエ資料の貸出冊数が未達だが利用者次第の部分があり、図書館側がコントロールできない側面があり、致し方ないとする。しかし、電子書籍サービスからサビエサービスの利用につながった事例もあり、引き続きPRを続けていただきたい。
	こどもや若い世代の読書推進	・ コロナ対応を踏まえたこども向けイベントの再開 ・ 高等学校への協力貸出（再掲）		こども図書室は4月から入室人数制限を解除した。換気等の感染症対策は継続して実施している。 毎週金曜日に行っているミニイベントは4月から参加者数を制限せずに実施した。 県立学校が当館ホームページ上で操作して、直接資料を予約できるように、システム変更を行った。サービス運用についても改定を行って利便性向上を図った。（再掲）			基本的な感染症対策を踏まえつつ、こども向けイベントの完全再開を目指した結果、ボランティア活動は概ね再開することができた。 これからもこどもの読書活動普及に取り組んでいきたい。		

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	計	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県立図書館職員の能力の育成	職員の研修機会の充実	・研修に参加しやすい環境の整備 ・研修成果の共有と自己研鑽	職員全体研修会の開催【2回】	6月蔵書点検休館日に2部構成で全体研修を実施した。1部は外部から講師を招き、2部は職員が講師となった。年末年始休館日（1月4日）にも「聴覚障害者とのコミュニケーション方法」についての研修を予定していたが、能登半島地震に伴う復旧作業を優先することとし、研修会は中止した。 ＜実績＞ ・6月 第1部：救命入門講習 第2部：電子書籍サービス研修	1回	達成率50% 評価（1） 70%未満	蔵書点検による休館期間中は全員参加が可能であるため、2部構成で全体研修を実施した。 下半期の研修を年末年始休館日（1月4日）に予定していたが、能登半島地震に伴う復旧作業を優先することとし、研修会は中止した。 次年度以降も当館職員の能力向上につながるような研修会を実施する。	E	「職員の研修機会の充実」についても国社研の図書館司書専門講座をはじめ様々な研修に職員が参加しており、評価できる内容である。県立図書館が引き続き直営となった要素の1つに図書館職員の専門性が挙げられていたが、引き続き県内図書館の支援を行うためには図書館員の継続した資質向上が必須であり、今後も充実した研修機会を設けてほしい。 職員の皆様の更なるスキルアップのための職員研修については、オンライン開催が非常に効果的であり、更なる職員の参加機会の増をお願いしたい。 職員の研修については、引き続きオンラインなども利用して充実していったほしい。また他県図書館への視察等交流も充実してほしい。
			館内研修における職員の発表回数【10回】	上半期はオンライン研修等を活用することで、より多くの職員の受講につなげた。 1月に研修内容を発表する伝達研修会を予定していたが、能登半島地震に伴う復旧作業を優先することとし、研修会は中止した。	0回	達成率0% 評価（1） 70%未満	12月までは研修成果の発表につながる研修の受講に努めた。 1月に研修内容を発表する伝達研修会を予定していたが、能登半島地震に伴う復旧作業を優先することとし、研修会は中止した。 次年度以降は、伝達研修を単発で開催することとし、研修機会を確保するようにしたい。	E	
			職員の研修・会議等参加平均回数（全体研修を除く）【平均2回】	オンラインでの研修環境の整備と受講機会の確保を図り、実績につなげた。 ＜実績＞ ・「伝わる広報」研修1名 ・広報スキルパワーアップ研修1名 ・障害者サービス担当職員養成講座（初級）1名（ワライ） ・児童サービス実践研修（館内研修）5名 ・図書館司書専門講座（国社研）1名 ・関東地区公共図書館協議会研究発表大会3名（集合、ワライ） ・2023年度サビエ研修会（ワライ）1名 ・新潟県公共図書館児童部門研究集会1名 ・「図書館等公衆送信サービス」説明会（ワライ）3名 ・生成AIの業務利用に関する説明会1名 ・特別研修「読書のバリアフリーをすすめるために」1名（ワデマンド） ・デジタルアーカイブフェス2023 1名（ワライ） ・Maruzen eBook Library公共図書館向け紹介ウェビナー1名（ワライ） ・生成AI時代の出版と図書館に期待される役割の変化2名（ワライ） ・書店・図書館等関係者における対話の場 1名（ワライ） ・北陸地区公共図書館職員研修会2名（ワライ） ・県内公共図書館中堅職員研修会1名 ・図書館総合展「図書館員向けデジタル対策セミナー基礎編」1名（アカイ） ・県内公共図書館総合部門研究集会「図書館とまちづくり」2名（ワライ） ・改正障害者差別解消法に係る事業者向け説明会2名（ワライ） ・関東甲信越・静地区図書館地区別研修1名 ・国立国会図書館レファレンスサービス研修「人文情報の調べ方」1名（ワライ） ・社会教育施設の整備・運営等に関するセミナー1名（ワライ） ・全国公共図書館研究集会 児童・青少年部門（長野市）1名 ・京都図書館大会「デジタル社会と図書館 電子書籍サービスから考える」2名（アカイ） ・特別研修「DXの推進により変化する社会のゆくえん」1名（ワライ） ・国立国会図書館遠隔研修「NCR2018年版のポイント」1名（アカイ） 国立国会図書館第34回保存フォーラム2名（ワライ） レファレンス協同データベース事業フォーラム2名（ワライ）	平均2.3回	達成率113% 評価（5） 100%以上	オンラインの活用により、全国規模の研修等への参加機会が格段に得やすくなったこともあり、目標を達成した。 次年度以降も引き続き参加機会を確保して、当館職員の能力向上につながる研修の参加機会を確保するよう努めていきたい。	A	